

野球部、甲子園出場の思い出

第29期 石川 正順

母校の硬式野球部はこれまで4回の甲子園出場を果たしている。甲子園出場は一つの快挙であり、普段は母校とは疎遠になりがちなOBに、不思議な、一種独特な力や誇り、幸福感を呼び戻してくれるものがある。

私は一卒業生に過ぎず野球部に在籍したこともなく、特に関連があったわけでもない。そんな私が母校の甲子園出場に関わりを持つことになるのだから人生の奇縁と言うべきだろう。

時は30年ほどさかのぼり、昭和52年の春、母校野球部は千葉県房総の地にキャンプを張ったのである(OBで元参議院議員の佐々木満氏のご縁に連なり実現したもの)。

キャンプ地は私の自宅と車で10分位の距離だった。このキャンプに2人のコーチが帯同しており、この2人が私と同期だった。このご縁により何かとお手伝いをさせてもらうことになった。

この年、2年生で左腕の高松投手を擁して念願の甲子園出場を果たした(当時は各県1校の代表ではなく西奥羽大会を制しての出場獲得)。喜び勇んで甲子園まで駆けつけたのは言うまでもない。

翌53年の春も千葉県でキャンプがあり、この年から旅館の手配、グラウンドや体育館などの練習場所の確保等に携わり、夜は旅館に泊まり込みで生活を共にしたものだ。

この年、高松投手は最上級生となり、更にパワーアップし「豪腕・高松」の異名を取り、1試合に10個以上の三振の山を築くほどで、安定感抜群だった(高松は投げる方で一大注目を浴びたが、実は打撃の才能も秀逸である)。この53年も地方大会を制して、2年連続で甲子園に駒を進めている。

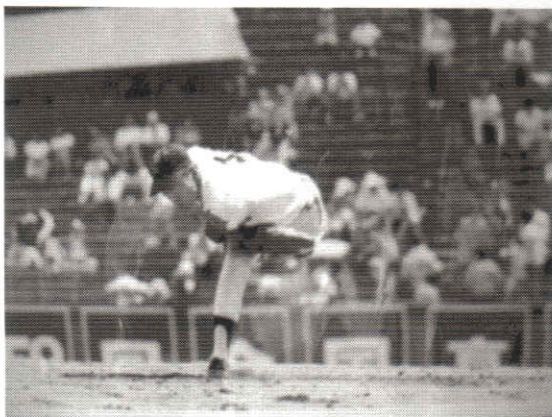
灼熱の甲子園球場で和歌山県代表の箕島高校と死闘を演じた場面は、30年経った今日でも一コマ一コマ目に焼きついている。

30年前の遠い出来事になってしまったが、母校野球部の2年連続「甲子園出場」にいささかのご縁を持たせたことは、私の人生の中で貴重なものと言える。

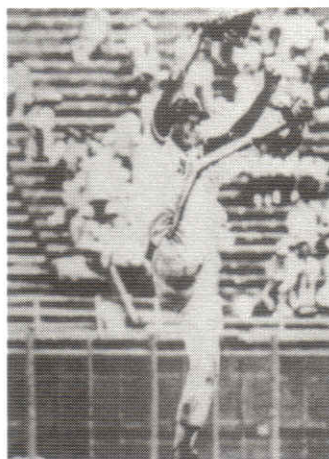
| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|---|
| 補 | 補 | 補 | 補 | 補 | 右翼 | 中堅 | 左翼 | 遊撃 | 三壘 | 二壘 | 一壘 | 捕手 | 投手 | 監督 | 部長 | 能 |
| 近藤 | 田口 | 市川 | 大友 | 大谷 | 佐藤 | 平川 | 石井 | 佐藤 | 菅野 | 佐藤 | 平川 | 東海林 | 高松 | 太田 | 金谷 | 代 |
| 亮悦 | 清司 | 尚基 | 幸一 | 哲士 | 晃一 | 温志 | 弘人 | 政喜 | 明彦 | 浩司 | 憲昭 | 直志 | 久隆 | 晴隆 | 高 | |



母校所蔵のアルバムより↑↓



「創立60周年記念誌」より↓



文武両道を実践

能代高等学校長 井上 高廣

皆さんは、タイムスリップして高校 1 年生に戻り、やり直しができるとしたら、どのような人生を歩みたいと思いますでしょうか？ たった一度しかない人生を最善の生き方をさせ、持てる能力をフルに出しきり、日本や世界を動かす人材を本校から世に送り出したものと常日頃から考えております。



昨年、時間をかけて本校の将来構想を検討いたしました。同窓生からのアンケートや現役の高校生と保護者の意見を多く取り入れた将来構想になり、「Will Project」として完成いたしました。これについては後で詳しく述べるものとします。

さて、このような中で今春の卒業生は、進学の面で過去最高とも言える結果を出すことができました。国公立合格者がこれまで 119 名が最高でしたが、今春は 121 名の合格者が出ました。東大 1 名、京大 1 名、一橋 1 名を含む難関大学といわれる合格者が 9 名となっております。特に校是である文武両道を実践した生徒が多いのも今年の特徴です。生徒たちが大学に合格したことに満足するだけでなく、高校生活で培ったものを生かし、あらゆる方面で活躍しようとする気概を持って努力精進し、さらに一層大きく成長してくれることを期待しています。

また、部活動の面ではインターハイ出場は、体操部（団体、個人）、柔道部（女子 1 人）と少々寂しいのですが、地元秋田で開催される「わか杉国体」の選手としても活躍が期待されています。文化部の活躍はこのところ華々しく、無線部、放送部、囲碁・将棋部が全国大会に出場権を獲得しております。

硬式野球部は昨年秋の 30 年ぶり全県制覇で、春は否が応にも期待が膨らみましたが、春季地区大会 2 回戦でまさかの敗退という結果になってしまいました。これまでは春先に良い成績を出して夏には尻すばみの感がありましたが、これからは、夏の甲子園予選で力を全開できるように頑張っていきたいものです。「文」で最高の成績を出し、甲子園を手中に収めれば文武両道の能代高校の面目躍如です。

東京同窓会の皆様には常日頃より多くのご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。益々のご発展と、会員の皆様のご活躍を衷心より祈念申し上げます。

大きな夢と高い志を

～ Will Project について ～

能代高等学校長 井上 高廣

本校が今後どうあるべきか、昨年度 9 ヶ月をかけた将来構想を検討いたしました。結果としてできたのが「Will Project」です。

私の夢は、能代高校から首相やノーベル賞を目指す生徒、日本や世界を動かすような生徒を育てたいということです。

Will Project の目的

1) 新しい取り組みによって「夢」と「志」を持たせ、自己の可能性に挑戦する気概を持った生徒を育て、地域、日本、世界を揺るがす、有為な人材を社会に送り出す。

2) 進学向上・学力向上のために考えられることは大体行っている。これからさらに飛躍的に伸ばすには、将来の「あり方、生き方」を考え、そのためには今何をしなければいけないかを自覚させ、主体的に学び活動する生徒を育てる。

3) 秋田県第 5 次総合整備計画に伴い能代市内の 5 校が 3 校に統合されるに当たって、単独で残る本校も将来を見据えて、どのような学校になるか確認する必要がある。

能代高校は、創立 82 周年を迎える伝統と輝かしい実績を持つ学校であり、地域の優秀な生徒たちが多く集まってくる進学校です。ただ大学に入学すればよいというのではなく、しっかりした目標を持って大学に進み、有為な人材として活躍できるように育てる責任があると考えています。

校長という立場柄、地域のいろいろな会に参加する機会が度々ありますが、どのような会合に行っても能代高校の卒業生が中心的な役割を果たしております。しかし、佐々木満先生が勇退されてから久しくなり、本校出身の国会議員はしばらくおりません。国政に携わる人材と地域をまとめる人材も育ててほしいものです。仁賀保町（現由利本荘市）に TDK を作った齋藤憲三氏のような世界を代表する企業家、技術者も出てほしい。秋田県は知事も教育長も県南地域の出身者で、その他にも県南地域に様々な面で押されています。能代市出身でノーベル賞候補の人がいるそうですが、本校出身者ではないそうです。

本校出身者には全国的に活躍している方が数多くいらっしゃるのですから、そういう方々に来校していただき、これまで得た体験や知識をもとに指導